

由利本荘市 人口ビジョンの概要

I 人口の現状分析

1 人口動向

(1) 時系列による動向

○総人口

- 1970年からほぼ横ばい、1985年を境に減少傾向、2015年以降においても減少の見込み、2014年には82,217人

○年齢3区分別人口

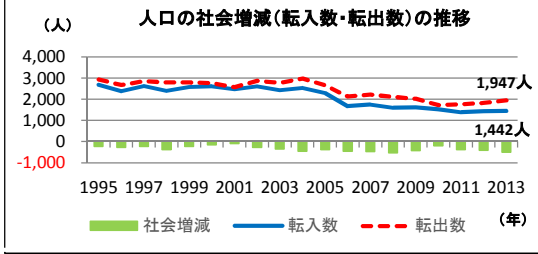
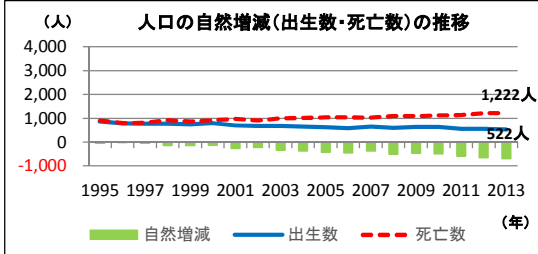
- 生産年齢人口(15~64歳)は総人口と同様に減少傾向
- 年少人口(0~14歳)は減少傾向にあり、1995年に老年人口(65歳以上)を下回る
- 老年人口は2020年まで増加、それ以降は減少の見込み

○自然増減

- 1995年以降、死亡数の増加、出生数の減少により、減少幅は拡大傾向

○社会増減

- 2004年以降年間▲400~▲500人前後の水準で転出超過が継続



(2) 人口移動分析

○時系列分析

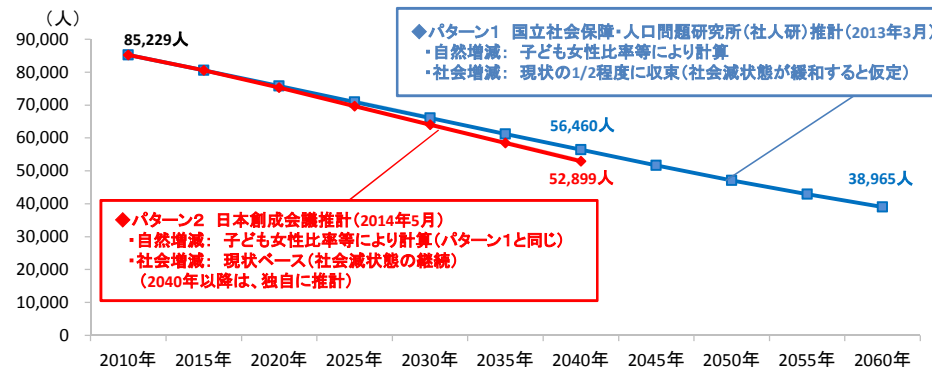
- 男性、女性ともに15~19歳→20~24歳の年齢階層で転出超過

○市内定着率

- 男女ともに低下傾向にあり、女性は特に大きく低下し、男性を下回る水準に

2 将来人口の推計

本市総人口の推計



○人口推計

- 社人研推計(パターン1)をベースとした2040年の人口は56,460人
- 一方、社人研推計より厳しい推計方法(日本創成会議:パターン2)では、2040年の推計人口は52,899人

○自然増減・社会増減の影響度

- 将来人口に対する自然増減と社会増減の影響の大きさを分析
- どちらも一定程度であり、秋田県内の他市町村の多くと同じグループに所属

現状分析から将来を展望

※合計特殊出生率: 一人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均的な水準。

※人口置換水準: 人口が長期的に増加も減少もせず均衡した状態となるのに必要な合計特殊出生率の水準。現在の日本では2.07。

II 人口の将来展望

1 目指すべき将来の方向

(1) 現状と課題

○「まち」の側面から見た現状

- 医療施設数は多いが、人口総数対比ではほぼ標準的
- 人口総数対比で見た保育所数は多い

○「ひと」の側面から見た現状

- 昼間人口と人口総数が同水準、雇用の流入と流出が均衡
- 秋田県全体の傾向と比較すると、高齢者世帯数が少ない

○「しごと」の側面から見た現状

- 創業比率は、秋田県内の他市町村に比べるとやや高い
- 企業増減率は、製造業が相対的に増加率が高い一方で、サービス業は半数以上の業種が県全体に比べて低い
- 赤字企業割合は県全体に比べると、製造業が低く、卸・小売業、サービス業が高い

(2) 目指すべき将来の方向性

○社会減の抑制

- 女性の定着率を改善するため、市内の雇用を確保
- 高校・大学進学を機に流出した層のUターンを促進

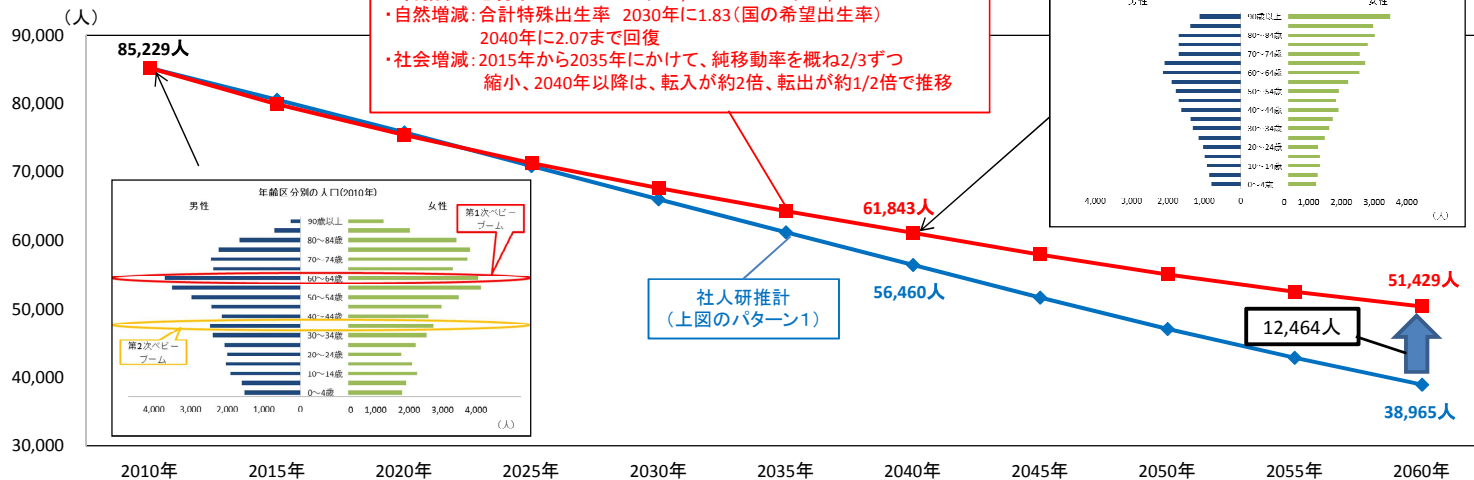
○自然減の抑制

- 出生率改善のため、子育て支援の充実(保育所を活用)

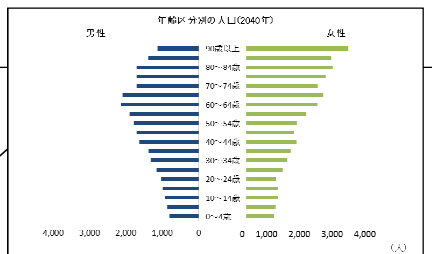
○持続可能な地域づくり

- 人口の転入増加を図りつつ、高齢化の進む産業における人口構造の若返りを図る施策等が必要

2 人口の将来展望



<<目指すべき将来人口>> 2040年:61,843人 2060年:51,429人
 ・自然増減: 合計特殊出生率 2030年に1.83(国の希望出生率) 2040年に2.07まで回復
 ・社会増減: 2015年から2035年にかけて、純移動率を概ね2/3ずつ縮小、2040年以降は、転入が約2倍、転出が約1/2倍で推移



○目指すべき将来人口(2040年、2060年)

合計特殊出生率が2030年までに1.83、2040年までに2.07に上昇し、社会減が段階的に収束して2040年以降は、転入が約2倍、転出が約1/2倍で推移するとした場合、61,843人(2040年)、51,429人(2060年)となる見込み